

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 人権意識を高く持ち、特別支援教育を通して、児童生徒の自己肯定感や他者への思いやりの心を育てる（特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施）										堺市立三原台中学校 校長 赤阪 博之		
令和6年度 重点目標 (1) 総合的な学力を育てるための指導の充実・改善 1. 落ち着いた学習環境を確立するため、学校全体で学習規律の確立をめざす。 2. 生徒自らが課題や見通しを持ち学習を振り返る主体的な学びを重視するとともに、「わかる喜び」を実感できる授業をめざす。特に、ユニバーサルデザイン化の深化とともに効果的にICTを活用しながら、深い学びの充実に向けた授業改善をする。 3. 家庭・地域の協働により、基本的生活習慣や家庭学習習慣の確立をめざす。特に「みんないく」への取組を中心に、心身ともに健康な生徒を育成する。 (2) 豊かな人間関係で結ばれた集団づくり 1. 互いの存在を尊重し信頼で結ばれた成長し合う学級づくりを進める。 2. 色々な人と関わる活動を行い、自他の人の立場を考え、お互いに認めあえる生徒の育成、集団づくりをする。 3. 生徒一人ひとりが自分のよさや可能性を知り、それらを発揮し未来の創り手となるために「誰一人取り残さない」教育を充実させる。 4. 道徳教育において自身の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情と態度を育てるとともに、教育活動全体を通じて様々な人権にかかわる教育に取り組む。 (3) 学校・家庭・地域との連携 1. 広報活動を充実させ、学校の方針や取組の理解をより深める。 2. 9年間を見通した「学校群」をはじめ、幼保小中高の連携により、子どもの育ちと学びが連続する「縦につながる教育」を推進する。 3. 保護者や地域の人々の学校教育への参加促進をはかるべく、「みんないく地域づくり推進委員会」と「学校協議会」との協働、運営の活性化を図る。 (4) 校内研修の充実と、学校のチーム力の発揮 1. 日頃から教育活動や危機対応の共通理解を図り、組織的な対応をめざす。 2. 授業づくりや集団づくりの研修を進め、いじめ・暴力のない安心できる学びの場づくりを進める。												
「確かな学び」の現状 基本的生活習慣の確立とともに、規範意識も身につけている生徒が多く、学習に対しても落ち着いて真面目に取り組んでいる。しかし、生徒自らが自分の考え（気づき、疑問点、課題）を書いたり、見通しを持ち学習を振り返る等、主体的に取り組む意識を高める必要がある。また、「学校群」の重点目標である「特別支援教育の視点に立った誰一人取り残さない教育の実施」に向け、ユニバーサルデザイン化やインクルーシブ教育等、生徒が「居場所」と「出番」のある授業づくりと「わかる喜び」を実感できるよう取り組む。						「豊かな心・健やかな体」の現状 道徳の授業や人権教育等により、色々な視点から自身の生き方や道徳的な判断力、心情や態度について学習している。中学校区でめざす子ども像の目標達成に向け、学校生活のあらゆる場面で自己肯定感を高め、他者と互いに協働して生きていくための豊かな心を育むことが大切である。体育の授業内容の工夫や部活動等で、子どもたちが体を動かすことの楽しさをしっかり感じることができる取組が必要である。						
大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	授業改善	主体的に学習に取り組む態度・学習意欲の向上	●授業のユニバーサルデザイン化を深化するため、授業研究や校内研修等の更なる充実を図り、指導方法の工夫改善、指導力向上に取り組む。	肯定率85%以上 全教員の公開授業実施	堺市学習生活状況調査 参観・研修委員会討議	年度末 随時	○	△	○ △ ○	・年度当初に、講師を招聘しUDの校内研修を実施し、全教員が研究授業を行った。調査「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところをわかるまで教えてくれる」では86%である。アンケート「先生は授業に取り組めるよう工夫している」では90%である。 ・アンケート「授業で自分の考えをノートに書いたり発表したりしている」では70%である。(昨年度67%) ・調査「授業でタブレットを、どのくらい使用していますか」では週3回以上が74%である。調査「授業でタブレットを使って、次のようなことにどれくらい取り組んでいますか」(学習課題に沿って、興味のあることを調べること)では82%、(より相手に伝わるように工夫して、発表すること)では75%である。	○	・調査での肯定率が高く、主体的に学習に取り組む態度・学習意欲の向上が見られる。
			授業でノートに自分の考え(気づき・疑問点・今後の課題等)を書く時間を設け、生徒が自主的に学びの整理をする。	肯定率80%以上 グループ別公開授業と討議	堺市学習生活状況調査 参観・グループ討議	年度末 随時						
			●一人一台のタブレットを活用し、問題解決的な学習とともにより深く理解したり情報を精査して考える「深い学び」の充実を図る。	肯定率80%以上 グループ別公開授業と討議	堺市学習生活状況調査 参観・グループ討議	年度末 随時						
基礎学力向上	学びのルールと学び合う集団づくり	学びのルールと学び合う集団づくり	落ち着いた学習環境を確立するため、基本的な生活・学習習慣について、教職員が共通理解して取組を進める。	肯定率85%以上	実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末	○	○	○ ○ ○	・調査「授業中は学習に集中していますか」では88%である。 ・調査「授業の内容はよくわかりますか」では1年英語84%、2年数学88%である。チャレンジテスト数学の対府比の同一集団経年比較(1年96%⇒2年101%) ・定期テストが30点未満は、約14%である。 ・調査「授業でタブレットを使って、次のようなことにどれくらい取り組んでいますか。(ペアやグループで、調べた内容や作成した資料をもとに話し合いをすること)では81%である。	○	・チャレンジテストにおいて、府平均と比較しても高く成果が出ている。引き続き授業改善等に取り組んでほしい。
			習熟度別少人数授業の効果的な活用や放課後個別指導等、きめ細やかな指導を行う。	30点未満人数10%以下 肯定率80%以上	学校教育アンケート 定期テスト	学期毎 年度末						
			調べ学習や話し合い活動・グループ(ペア)学習を積極的に取り入れ、教え合いをする等、わかる喜びを一人でも多く実感させる。	肯定率80%以上	堺市学習生活状況調査	年度末						
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	心身の調和のとれた子どもの育成	●道徳教育において自身の生き方について考えを深め、道徳的な判断力、心情と態度を育てることで豊かな人権感覚を身につけさせる。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査 生徒のワークシート	年度末	○	○	○ ○ ○	・調査「自分のことを大切に思いますか」では86%、「相手の気持ちやその場の状況を考え、自分の思いをもって行動していますか」では88%である。 ・調査「やると決めたことは、最後までやり遂げようとしていますか」では82%「自分はやればできると思いますか」では84%、「自分にはよいところがあると思いますか」では80%である。 ・学校司書、図書館担当教員と協力し、毎日開室した。来室者数は2,893人(昨年度約1,643人)また、図書館だよりを定期的に発行し、お薦めの書籍も紹介した。	○	・図書館通信を発行したり、先生おすすめの本を紹介したりと工夫して取り組めている。また、来室者数が増えたことは取り組みの成果である。
			●あらゆる教育活動の中で、物事を最後までやり遂げる成就感や達成感を得られるようにすることで生徒の自尊感情を高める。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査	年度末						
			学校司書と連携し、学校図書館の開室日数を増やし、有効且つ計画的な活用を進めることで、生徒が読書に興味を持てるよう啓発を促す。	図書室来室者数 経年比較 肯定率65%以上	図書担当教諭 実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末						
		生徒指導の充実	「みんないく授業」「睡眠朝食調査」「みんないく面談」を活用し、「睡眠を切り口とした生徒指導」という視点で、生徒に自らの健康について考えさせる。	みんないく面談の実施 肯定率85%以上	みんないく担当者会議 学校教育アンケート	随時 年度末	○	○ ○ ○	・みんないく授業や睡眠朝食調査、みんないく面談を定期的に実施している。 ・情報モラルや規範意識について集会や総合的な学習の時間を活用し、意識を高めるようにしている。 ・調査「学校のきまりを守っていますか」では94%である。	○	・地域とも協働し、学校全体でも「みんないく」に取り組めており、成果が出ている。	
			SNSやスマホの正しい使い方等、情報モラルについて理解を深めさせ、ネットトラブルやいじめ防止に努める。	肯定率90%以上	堺市学習生活状況調査 実施報告	年度末						
			規範意識の醸成と、主体的に判断し適切に行動できる生徒を育成する。	肯定率85%以上	堺市学習生活状況調査	年度末						
開かれた学校づくり	地域・校種間連携	地域への情報発信 や地域連携及び小中一貫教育の充実	★「学校群」の教育目標や重点目標を共有し、小中教職員が一体となり児童生徒の9年間を見通した教育実践を行い、地域や保護者への発信も更に進める。	定期的な学校群の会議を行い3校で効果検証を実施	実施報告 学校教育アンケート	年度末	○	○ ○ ○	・「学校は学校群の取り組みをしていることを知っている」では72%である。(昨年度43%) また、2年間のモデル事業で来年度以降の方向性が概ね回った。 ・青少年健全育成の事業として、「防災ウィーク」「校区ピカピカ作戦」を実施し、地域や関係機関との連携や幼保子ども園、小学校、中学校の連携を更に強化することができた。 ・HPのみならず、Tetoruによる発信が効果的であった。(配布プリント、学校だより、学年通信、欠席遅刻連絡、部活動の連絡等)	○	・地域や関係機関との連携や幼保子ども園、小中学校での取り組みができており、校区清掃や防災教育もよかった。	
			三原台中学校区青少年健全育成協議会の活動を充実させるとともに、積極的な地域行事への参加等、地域との密接な関係を築く。	参加者 経年比較 協議会での肯定的評価	実施報告 堺市学習生活状況調査	年度末						
			家庭・地域・学校の協働体制を充実させるため、学校通信・学年通信・学校HPで学校の情報を発信する。	肯定率90% 学校HP毎日更新	学校教育アンケート	年度末						
校長より(年度末) 主体的に取り組もうとする学習や行事で達成感を味わわせることが、子どもたちの自尊感情や自己肯定感の醸成につながることを意識してやってきた。また、教員の授業方法の工夫改善や指導力向上に向け、ICT活用やUD等の研修を実施し授業力向上にも努めてきた。学校群も含めて、次年度は前述の取組を更に深めていきたい。									学校関係者評価者から(年度末) 学校・家庭・地域・関係機関と協力して取り組んでいる。			